

環境配慮行動普及促進事業費補助金及び二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（「デコ活」（脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）推進事業）

審査委員の意見を踏まえた総評

（令和6年6月24日～令和6年7月12日公募）

【全体】

・「くらしの10年ロードマップ」（令和6年2月 デコ活応援団（新国民運動・官民連携協議会））に則して、国民（消費者・働き手）にとっての行動制約要因（ボトルネック）を課題として認識し、そのボトルネックを構造的に解消するための仕掛け（取組・対策）についての具体的な検討がなされている等、本補助金の制度の趣旨に合致している申請を高く評価した。

・事業実施により、業界の内外に対し、広くボトルネックの構造的な解消に向けた効果を与え得ると考えられる申請を高く評価した。

・なお、本補助金を活用したプロモーションについては、補助対象事業の認知度の向上を通じて、上述のような、業界内外に対して広くボトルネック解消の効果を与えることを目的とする必要があり、この観点で、用途が明確化され、自主事業の販売促進費との棲み分けが明確になされていることが必要である。

・本事業をきっかけに、更なる消費者のライフスタイル変容や脱炭素に貢献する行動変容の拡張、発展に繋がる取組を期待する。

上記の観点により審査を行った結果、ボトルネックの構造的な解消に資する具体的な仕掛け（対策・取組）が認められる事業として、移、職及び基盤の分野において、事業の採択となった。

【移】

概ね、評価は以下のとおり。

・「くらしの10年ロードマップ」にも記載の、環境負荷がより少ない移動手段の選択の意義やメリットについて、ナッジ的観点も踏まえつつ、国民に分かりやすく伝える仕組み作りを志向している申請を評価した。

・業界団体や他業種とのコンソーシアム形成等を通じ、脱炭素に資する大規模なインフラを活用して事業展開を行うことにより、業界内への広い波及効果が期待される申請を評価した。

【職】

概ね、評価は以下のとおり。

・個人の取組の効果の見える化に留まらず、企業やビル全体での取組による効果の見える化等を通じて、ビル内の各テナントへの効果的な訴求を志向している申請を評価した。

・オフィスでの体験を従業員個人の生活における行動変容に波及させていくための道筋についても更なる検討を期待する。

#### 【基盤】

概ね、評価は以下のとおり。

・「くらしの10年ロードマップ」にも記載の、全ての生活領域で行動変容が促される経済的・社会的なインセンティブを、持続的かつ分かりやすい形で国民・消費者に提供する機会を様々な場で広範囲に消費者に対して提供する申請を評価した。

・全国の様々な小売事業者も巻き込み、同様なインセンティブが普及・浸透していくことを通じて、地域や全国において行動変容が促されることを期待する。

以上